

2022. 8. 31 (水) 19:30～  
会場 八代地区コミュニティセンター

# 豊岡市立小中学校適正規模・ 適正配置計画

## 八代小校区説明会

豊岡市教育委員会



1

# 次 第

- 1 あいさつ
- 2 豊岡市立小中学校適正規模・適正配置計画における八代小学校の位置づけについて
- 3 小規模特認校について
- 4 保護者向け説明会、アンケート調査の結果
- 5 今後の進め方
- 6 意見交換
- 7 アンケート

2

## 1 あいさつ

3

八代小学校小規模特認校制度導入要望の経過と  
豊岡市立小中学校適正規模・適正配置計画の策定経過

年度	八代小	計画策定の経過
2019		2/3 審議会へ諮問 以降 審議会を計7回開催 (2021年2月10日まで)
2020		10/2 保護者向け 10/23 地域住民向け } 審議内容についての 意見交換会 (中間報告)
		2/10 審議会より答申
2021	6/25 八代地区区長会 要望書提出 10/1 八代小PTA 要望書提出	7/2 答申説明会 12/3 計画案説明会 (パブリックコメントも実施) 12月末 計画策定
2022	6/23 日高地区区長会要望書提出 6/24 八代地区区長会要望書提出	5/15 第1回保護者意見交換会 6/19 第2回保護者意見交換会 8/31 八代小校区説明会

4

## 2 豊岡市立小中学校適正規模・適正配置計画における八代小学校の位置づけについて

## 【参考】八代小校区の子どもの数

2022年度 単位：人

小学校 区別	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	未就 学児 計	小1	小2	小3	小4	小5	小6	小学生 計
八代小	2	1	5	2	2	4	16	1	2	2	11	3	8	27

八代小 児童数 見込	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	2028 年度
	27	23	22	13	16	15	16

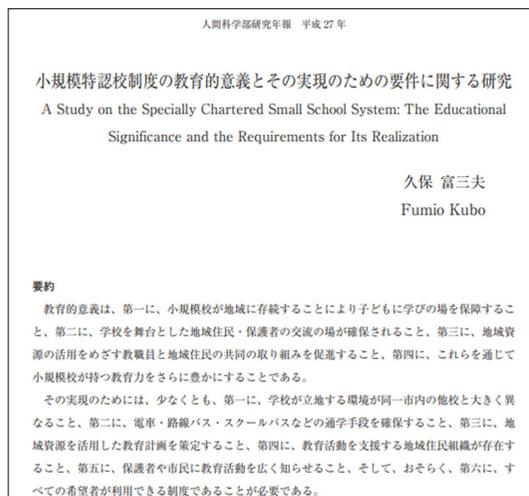
## 日高地域(八代小校区)の再編の枠組

地域	対象校	前 期						
		令和3年度 2021年度	令和4年度 2022年度	令和5年度 2023年度	令和6年度 2024年度	令和7年度 2025年度	令和8年度 2026年度	令和9年度 2027年度
日高地域	八代小			23人	...	※小規模特認校の協議・検討 (地区からの要望書を受けて)		
	日高小			378人	→	2024年度 児童数見込 児童 417人 学級数 14		
	静修小			35人	→			

## 市教育委員会としての考え方

- ◆ 八代小・日高小・静修小の3校での再編が望ましいと考える
  - 八代地区・八代小PTAからは…  
八代小学校を小規模特認校とすることへの強い要望
- ◆ 保護者や地域住民と十分な合意形成を図りながら進める方針であることから  
様々な視点から協議を進めていくこととします。

### 3 小規模特認校について



#### (1) 小規模特認校制度とは

- ◆小規模特認校制度とは、「学校選択制」の一形態である「特認校制」のうち、「小規模校」において取り入れられている制度
- ◆従来の通学区域を残したままで、特定の学校について、通学区域と関係なく、当該市町内のどこからでも通学を認めるもの
- ◆小規模特認校では、特色ある教育を推進し、区域外の児童生徒を呼び込むことにより、子どもたちの活動を充実させることや、複式学級の解消など学校の活性化を図ることを狙いとしている

○兵庫県における小規模特認校の導入状況(令和3年度現在) 9校  
神戸市2校、三田市1校、猪名川町2校、西脇市1校、養父市1校、南あわじ市2校

兵庫県冊子 少子化に対応した教育の充実に向けて

～公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等の検討にあたって～ より引用

#### ～養父市立建屋(たきのや)小学校での取組～

養父市立建屋小学校では、小規模校のメリットを生かして特色ある教育を進めています。

令和3年度の全校児童は43人で、うち15人が制度を利用して通学しています。

#### 【特色ある取組】

- ・ALTの常駐により、日常的にネイティブな英語にふれる活動の実施
- ・インターネット利用によるオンライン英会話で外国人講師と対話する英語学習
- ・劇団の演劇指導による表現力の育成
- ・校区内の農園での収穫体験(イチゴ狩り)等



兵庫県冊子 少子化に対応した教育の充実に向けて

～公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等の検討にあたって～ より引用

#### 【参考】 兵庫県下の小規模特認校実施校にかかる学校別児童数

2021年度5月1日時点 単位:人、カッコ内の数字は制度利用者数(うち数)

		1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
神戸市	六甲山小学校	6(4)	12(9)	10(9)	9(6)	12(12)	14(12)	63(51)
神戸市	藍那小学校	5(5)	10(10)	3(3)	7(7)	8(7)	9(9)	36(35)
三田市	母子小学校	4(3)	0(0)	1(1)	3(1)	2(0)	2(0)	12(5)
猪名川町	楊津小学校	12(1)	13(1)	7(0)	16(1)	8(0)	6(0)	62(3)
猪名川町	大島小学校	8(0)	4(0)	8(0)	6(1)	9(0)	12(0)	47(1)
西脇市	双葉小学校	0(0)	9(3)	5(5)	5(1)	13(7)	2(2)	34(18)
養父市	建屋小学校	4(3)	9(4)	7(2)	7(3)	4(1)	12(2)	43(15)

※南あわじ市の2校(沼島小学校、沼島中学校)は離島にあるため、ここには掲載していない

※六甲山小学校以外は学級編制基準上で複式学級が生じている。

(複式学級・・・2つの学年で14人以下、1年を含む場合は8人)

## (2)小規模特認校制度の実施状況にかかる論文について

小規模特認校について、大規模な調査を行った論文を紹介します。  
(小規模特認校の在籍者数(2010～2014年度)を調査し、その変遷(増減)についてまとめられたもの)

久保富三夫氏

「小規模特認校制度の教育的意義とその実現のための要件に関する研究」

### 調査の時期・方法等

【調査時期】2013年11月～12月

【調査対象】47都道府県・20政令指定都市教育委員会

【回答数】43都道府県および20政令指定都市教育委員会から回答

13

### ○制度導入の実態

- (1) 2014年度の制度導入学校数  
444校(小学校369校、中学校75校) ※一部未回答の都道府県あり
- (2) 2010年度と2014年度の在籍者比較
  - ・児童生徒数が増加 136校(30.6%)
  - ・児童生徒数が減少 283校(63.7%)
- (3) その他
  - ・小規模特認校として把握されている241校(2003年度)のうち44校(18.3%、小38、中6)が2013年度までに閉校

➡ 制度導入が直ちには在籍者数の維持・増加に繋がらない厳しい現実を示している

14

### ○制度の教育的意義(メリット)

- (1) 制度の利用者があれば・・・  
**最低限の集団規模が確保ができる。あるいは、複式学級編制が解消される。**
- (2) 学校を舞台とした地域住民と保護者との交流の場が確保される。
- (3) **地域と学校とのかかわりが強くなる**  
制度の継続・発展(制度利用者の確保等)のためには魅力ある教育課程・教育活動の創出と**地域ぐるみでの高度な取組が必要**  
→ 教職員と地域住民の共同の取組を促進  
(目的意識・地域資源の活用)
- (4) 大規模校で不適応を起こしていた児童生徒が、自己肯定感を高め、学力を向上させ、人間的にも成長を遂げた事実が多く存在する。

15

### ○成果をあげるための条件(研究論文と先進事例から)

- (1) **通学が可能な範囲に人口密集地が存在していること。**
  - ・学校の立地環境が他の学校と大きく異なること
  - ・通学については**保護者の責任による送迎が原則**
- (2) **子どもと保護者を惹きつける教育課程が行えること。**  
(ただし小規模特認校には教職員の加配や特別な予算措置の制度はない)
- (3) 地域が制度導入を主導し、導入後も学校教育活動を全面的に支える住民組織が存在し機能すること。

➡ (継続的に)教える人材を**地域主体で確保**する必要がある

- ・地区住民が教える(または外部講師を連れてくる)
- ・いつ教えるか
- ・そのための費用の確保

16

○課題(研究論文と先進事例から)

- (1) (特色ある教育課程づくりで) **極端な特色化が進むと、地域の子どもが学びにくい学校となる可能性がある。**
- (2) 校区外からの子どもは、居住地と疎遠になりがちになる。
  - ・地域の課題に向き合う機会が減
  - ・居住地の子どもと交流する機会が減
- (3) 他の校区との子どもの取り合いになる
  - ・ **他の校区へ転居してしまう**(同級生がいないため等)
  - ・制度の利用により、居住地の学校に複式学級が生じる
- (4) その他の取組の必要性
  - ・過ごしやすい場所の確保(放課後の居場所、地区行事の工夫)
  - ・住民を増やす取組 ( I・Uターン等)

17

## 4 保護者向け説明会(意見交換会)、アンケート調査の結果

18

### 保護者向け説明会(意見交換会)の結果

第1回 2022年5月15日(日)

小規模特認校に期待すること、気になること

第2回 2022年6月19日(日)

もし、小規模特認校制度を導入するとした場合の

校区外の方から魅力を感じてもらえるような  
特色ある取組の具体案について

としてワークショップを実施

19

### 第1回ワークショップでの意見 小規模特認校に期待すること、気になること

期待していること	気になること
小規模校の良さ 人数が増えることに期待 <ul style="list-style-type: none"><li>・友達が増える、競争がうまれる</li><li>・人と人とのかかわりが増える</li></ul>	人が集まるのか? <ul style="list-style-type: none"><li>・児童数が増えなかったらどうなる?</li><li>・集団行動、コミュニケーションが不安</li><li>・運動会はさせてあげられるの?</li></ul>
特色のある取組 <ul style="list-style-type: none"><li>・一輪車、和太鼓(現在も取組んでいるもの)</li><li>・八代オクラ、自然学習(自然・環境を活かす)</li><li>・他との交流(専門職大学、同規模校、海外)</li></ul>	特色をどのようにもたせるのか? <ul style="list-style-type: none"><li>・特色をどのようにもたせるのか?</li><li>・学校の特色をどう決めて行くのか?</li></ul>
小規模特認校の導入によって <ul style="list-style-type: none"><li>・移住者、Uターン者が増える</li><li>・八代地区全体の活性化</li></ul>	負担 <ul style="list-style-type: none"><li>・長く協力しつづけてもらえるか</li><li>・校区外からの通学手段</li><li>・「色々な」子どもが集まることを受けとめられるか</li><li>・先生たちへの負担</li></ul>

20

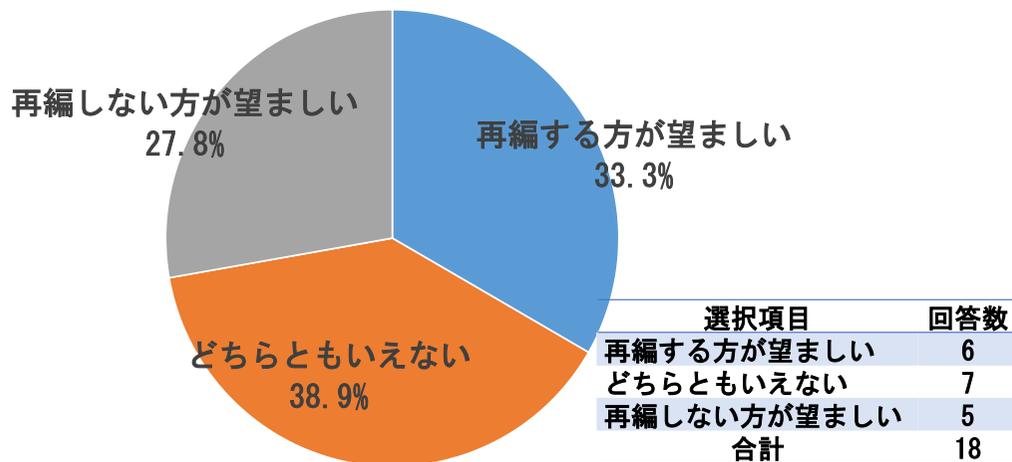
	取組案1	取組案2	取組案3
A班	自然を生かした活動・体験	演劇を取り入れた教育	地域交流・世代間交流
B班	新しい科目を作る	体験学習 (職業、農業、自然)	プログラミング教育
C班	和太鼓 (八代保育園とのつながり)	自然と食 (自分で育て料理する、 売りに行く、地域交流)	少人数を生かしてで きることを考える (学習の保証、個性をのば す)
D班	和太鼓 (自己肯定感、一体感)	演劇、唄、ダンス (県立大学の学生から教 わる)	ICT教育 (外部講師、企業、学生 から教わる)

## 保護者対象アンケート

対象者、実施方法等

調査対象	八代地区に在住の子どもの保護者全世帯 23世帯 (小学生保護者16世帯、未就学児保護者7世帯)
調査期間	2022年8月19日～8月24日
調査方法	郵送による配布 質問紙又は電子アンケートでの回答受付
回収状況	18件(質回答6件、WEB回答12件) 回収率: 78.3% ※全設問無回答1件除く

### 【問1】市の計画「八代小学校・日高小学校・静修小学校の3校での再編」について



### 【問1】市の計画「八代小学校・日高小学校・静修小学校の3校での再編」について

(意見の一例)

#### <再編する方が望ましい>

- ・少人数クラスのメリットはよく分かる。しかし、子どもの将来を考えると色々な人との関わりを持ちながら育てていくべきではないか。
- ・特認校にしても受け入れ人数の大幅な増加は見込めないと思う。

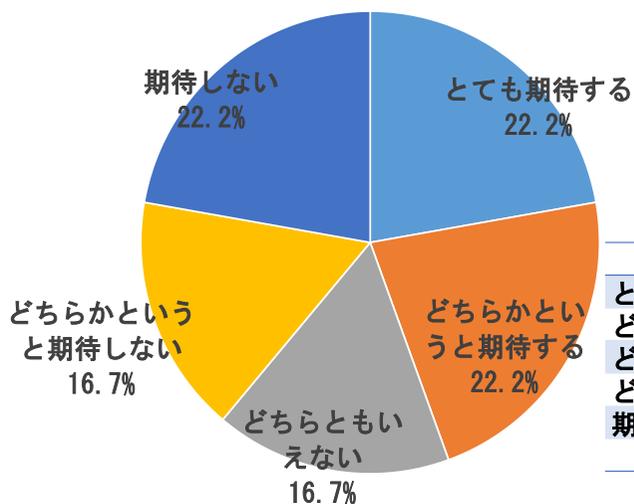
#### <どちらともいえない>

- ・以前は再編しない方が望ましいと思っていたが、最近では大人数の友達の中でもまれるのもありなのかもしれないと思う。
- ・少人数でいい面もたくさんあるが、同学年が多いと考え方が広がったり友達の輪が増えたりたくさんの刺激がもらえると思う。気の合う友達を見つけることができるのは人数が多い学校のメリットでもあると思うが、皆が皆、大人数に打ち解けられるかは分からない。

#### <再編しない方が望ましい>

- ・現状の小規模特認校で、特色ある取り組みの小学校として、児童数増加の取り組みに賛同しています。
- ・子ども達のためには少人数で子どもに寄り添った教育をすべき。地域のためにも小学校は必要。大規模な小学校と合併することよりも小規模な小学校の人数を増やすことを考えるべき。

## 【問2】小規模特認校制度への期待について



選択項目	回答数
とても期待する	4
どちらかという期待する	4
どちらともいえない	3
どちらかという期待しない	3
期待しない	4
合計	18

25

## 【問2】小規模特認校制度への期待について

(意見の一例)

### <とても期待する> <どちらかという期待する>

- ・小学校に特色を持たすことにより、今まで以上に子ども達が楽しくのびのびと通えるようになると思う。八代小学校や八代地域に興味を持ってもらい、生徒数や移住者が増えて欲しい。
- ・この制度が導入されたら劇団の方や芸術文化観光専門職大学との交流に期待します。ワークショップに興味があり、コミュニケーション能力を高めるのに効果的ではと思う。

### <どちらともいえない>

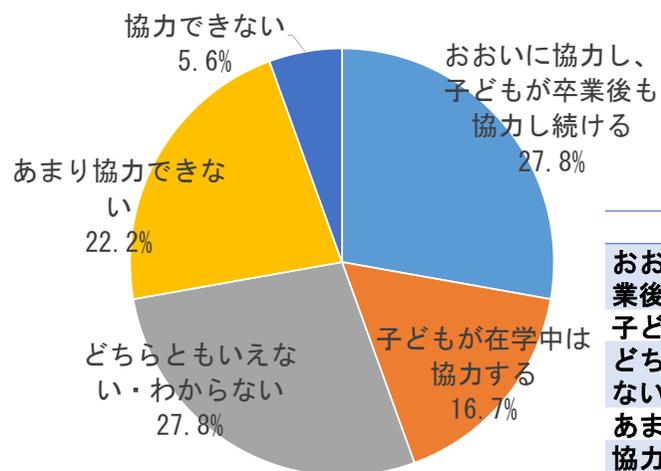
- ・人がそこまで集まるとは考えにくい。自分の気の合う友達と遊ばせてあげたい。同学年の子と遊べたりする機会を与えてあげたい。

### <どちらかという期待しない> <期待しない>

- ・今の小学生4年生が卒業したら、もっと減少も考えられるのに、本当に他所から子どもが来てくれるのか。来てくれても、その後八代で卒業するまでいてくれる保証があるのか。
- ・複式は解消されない可能性の方が高いし、仮に制度を利用した児童が転入しても八代地域の人口が増える訳ではない。

26

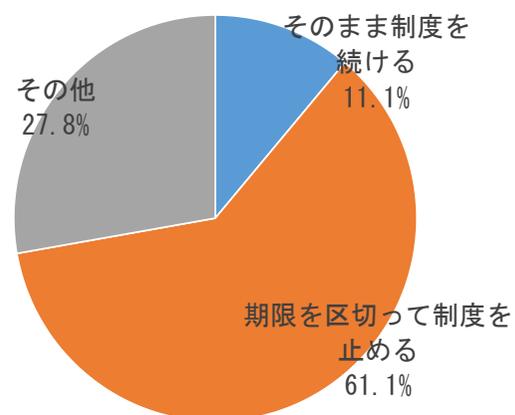
## 【問3】小規模特認校制度への協力



選択項目	回答数
おおいに協力し、子どもが卒業後も協力し続ける	5
子どもが在学中は協力する	3
どちらともいえない・わからない	5
あまり協力できない	4
協力できない	1
合計	18

27

## 【問4】複式学級が解消されない（利用者が少なく児童数が増えない）場合など、効果が得られない場合の対応



選択項目	回答数
そのまま制度を続ける	2
期限を区切って制度を止める	11
その他	5
合計	18

28

【自由記載】八代小学校の今後のあり方について その他意見等

(意見の一例)

- ・複式学級が解消される見込みがないなら始めないでほしい。
- ・豊岡市としては導入方向で進んでいるのか。仮に期限をつけて実施しても数年では成果はでない。統合の先延ばしにしかすぎない。
- ・我が子が在校生なら残ってほしいと思うかもしれないが、入学予定の子を持つ親としては、より社会に近い環境(多くの生徒がいる学校)に通わせたい。
- ・小規模特認校制度だけでも認知度が低いのに八代小学校が今、行っても浸透するのに時間がかかると思う。しかし、あまりにも人数が少ない場合は小規模特認校制度の廃止も検討した方が良くと思う。
- ・中途半端にするのが1番よくないと思うので特認校で行くなら目標を定めるべき。2年か3年後に何名増加見込みがあるか調査し、達成できないなら合併すべき。
- ・保護者、地域の方、先生方。それぞれの立場や意見は、100人いれば100通りあっていいと思います。でも、子どもが卒業した後も、協力するのは限界があると思います。児童数が少ない以上に、実家庭数をもっと少ないです。リサイクル活動、奉仕作業、小学校の役員、行事の時の準備の人出。年々、保護者の負担も増えています。

【自由記載】八代小学校の今後のあり方について その他意見等

(意見の一例)

- ・子ども達の将来に向けて、今後の学校生活の環境を、親がどうしたいのかが本来の論点と思います。
- ・八代小学校がなくなってしまうのは非常に寂しく思います。ただ、他校区からたくさん子どもたちが八代小学校にやって来るようになるほどのアピールの準備の時間不足や、現在保護者以外の地域の人たちの関心や協力は本当にあるのか、ほんの一部の人たちだけになっていないか気がかりです。
- ・これまでの八代小学校としての特徴を土台としながらも、今後は、個々の持っている可能性が伸ばし合い高め合う「時代にマッチした学び舎」として、自分らしく力強く生きていくための「心の土台づくり」に特化した、全国的に観ても新しい革新的な学び舎として寄与できるような小学校を、地域、学校とが一体となって創りあげていきたいと考えています。
- ・これからの小学校は先生や保護者だけでなく地域全体で支えていくべき。八代地区にはそれだけの熱い思いがあるので、小規模特認校として認めてもらえれば子ども達にとってよりよい学びの場となるはずである。地域の活性化につながることは間違いない。合併は目先のことだけを考えた合理化にすぎない。将来のことを考えるなら小学校は残すべき。

5 今後の進め方(案)

小規模特認校を導入した自治体から助言をもらいました

- ・小規模特認校として進めていこう！という方向になったとしても、それから決めていかなければならないことは多い。
- ・〇〇市〇〇小学校では、校区の住民代表や保護者らと協議会（地域主導の組織）をつくり、約1年かけて検討を行った。（取組内容や地域でやるべきことを具体的に、しかも継続性のある計画とすることが必要）
- ・また、導入初年度に制度利用者があることが重要。制度の周知は丁寧に時間をかけて行うことが必要。（PR活動：チラシ作り、オープンスクールなど）

➡ めざす学校像を実施計画としてまとめ、市教委に提出

5 今後の進め方(案)

2022年度		2023年度			2024年度
8月	9月～3月	4月～8月	9月～12月	1月～3月	4月～
【検討】					
・説明会の実施（教育委員会事務局）					
・八代地区代表者との協議					
・八代地区内での具体的な協議（八代地区） — 実施計画書の作成 —➔					
		・方針決定（教育委員会）			
【小規模特認校を導入する場合】					
		・特色のある教育の実践、周知、学校見学会等（地区、学校）➔			
		— 利用者募集 —➔			
		・実質的な開始			